

立は都立と違い、費用がとてもかかる。聞いた
たことがある。家の負担にならないだろうか
この不安は杞憂に終わった。なんと二千ニ
十年から市立高校の授業料が実質無償になっ
たらしい。良いことだが都立も私立も無償化
していたら大金が必要になる。このお金はど
こから来ているのだからか。
答えは税金である。税金とは国・都道府県
・市町村に国民が払うお金のことだ。消費税
、所得税、法人税など様々な税がある。これ
らの税によって高校は無償化された。
ここですぐ書いてほしいのは、税金は子供の
いない人も払っているということだ。当然な
がら高校生は子供である。
「なら、子供のいない人はその分払わなくて
も良くない？」
と思うだろうがそうではない。高校に行かせ
るということは優秀な人材を育てるというこ
とである。子供の有無に関わらず世の中を良
くするために税金を払っているのだ。

私は考えた。もしも高校に入っても何もせず、授業も右から左へ流していたら大切な税金は無駄になるのではないだろうか。大当たりである。これらの行動は高校にいた三年間と高校生一人あたりに使われる三年間の税金約三百万円をドブに捨てている。一つ成長していかないならば意味がない。一つつまり、私が何を言いたいのかという、税金を無駄にしないこと、勉強をおろそかにしないことである。何度も言うが税金で都立・私立の高校の無償化が実現している。このお金は汗水垂らして働いた社会人の一部だ、私は思っている。この人達は私達に期待し、私達はその期待に応じる必要がある。私は高校に行くことを面倒臭く感じていたが税金の大切さを学び、このままではいけない。いと考え直した。自分のためにも、これからこの社会のためにも税金に感謝しながら高校でしっかり勉強したい。